

まいにち学校
まいにち街の中
こどもの笑顔に
つなげる

はじける ココロ

vol.30

リニューアル
したよ!!



多民族フェスティバル
「ピニャータわれる! エイッ!」



素敵な出会いの日
「見て見て! ハングルで書いたネームプレート」

げんげのとは：蓮華草が生い茂った草原のこと。れんげ草は、茎が地に臥して広がり、春になると蓮の花に似た小花を咲かせます。また、れんげ草は緑肥として大地を肥やします。蓮に似た小さなれんげ草を、子どもたち一人ひとりの尊厳に見立てて、それが一面に花開く様子をイメージしました

特集 1	多文化との出会い・つながりの創造 箕面市国際交流協会 河合大輔さん 箕面市立南小学校 横岩直子さん	… 1 P
特集 2	いきいきさわやかに学ぶ会	… 3 P
連載	わたしの人権教育 箕面市立第二中学校 西川ひとみさん	… 5 P
	学校のお宝発掘 (2) 「人権教育教材集・資料」	… 6 P
	考えてみよう「ボクの学校、わたしの学校、みんなの学校」	… 7 P
	かわのひでただ	… 8 P
	聴かせてよ「子どものきもち」	

聴かせてよ 子どもの気持ち

外国にルーツを持つ子どもたちは、どのような思いで学校生活を送っているのでしょうか。今回は、外国にルーツをもつ子どもたちが数多く在籍する、豊川南小学校の日本語教室で勉強している子どもたちにお話を聞きました。

(質問)

- A どの国に住んでいましたか
- B 日本に住んで何年目ですか
- C 日本にきてびっくりしたこと
- D 勉強はどうですか
- E 友だちはできましたか
- F その他

- A モンゴル B 1年目
- C 双子の兄弟が同じクラスじゃなかったこと
- D 岡村先生の作ってくれる(挿絵が多い)プリントが好き
- E すぐ仲良くなれなかったけれど、今は休み時間にいっしょに遊んでいる
- F 日本もモンゴルも同じくらい好き 帰りたいとは思わない

- A インドネシア B 2年目
- C とっても寒いこと 空港が海の上にあること
- D 日本に来る前も勉強していたし、家でも勉強している 通訳の人がいてうれしかった
- E すぐに話しかけてくれる子がいて、うれしかった
- F 大きくなったらインドネシアに帰りたい 大好きな虫がいっぱいいるから

- A エジプト B 4年目
- C みんなが頭になんにもかぶっていないこと
- D 日本語教室で勉強するのが楽しい 日本語も分かるようになっておねえちゃんとけんかをするときも日本語が入る
- E 友だちはすぐできた
- F おすもうをしてあそんでいる

- A イギリス B 1年目
- C ない 前から何度か来ていた
- D 書くのはかんたん 話すのがむずかしい 図工で絵の具で絵を描くのが好き
- E 友だちはすぐできた
- F おもちを初めてついた 思ったより軽くてかんたんにつけた きなこもちが好きで家でも食べている

- A ロシア B 3年目
- C ない
- D 日本語が分かってきた
- E 友だちがいっぱいいる おにごっこや ドッジボールをして遊んでいる 家ではロシア語で話している
- F おにいちゃんとはけんかをするけれど、クラスの友だちとはしたことがない

人権教育推進会議情報誌 『はじける ココロ』

発行 箕面市人権教育推進会議
箕面市教育委員会

人権教育課 TEL 072-724-6921 FAX 072-724-6010
e-mail: eduinken@maple.city.minoh.lg.jp

平成24年(2012年) 1月

人権教育推進会議委員

八木晃介、河野秀忠、蒲隆夫、安東由紀子、小島敦子、西村和浩、上田晃江、守婦朋子、永田千砂、小関政子、奥谷俊彦、結城美保里、卯滝勢津子、山下晴久、山北智、森崎直幸



「はじけるココロ」は教職員・PTA運営委員に配布しています。また公共施設にもおいています。
公開ホームページ: <http://www.city.minoh.lg.jp/eduinken/jinken/jinken.html>

げんげののぺえじ みのおから世界へ! 人権文化の花束を!

わたしの人権教育

第二中学校 西川ひとみさん

国語の文法の授業で「らしい」ということを教えるときがあります。「女らしい」「男らしい」「子どもらしい」などが活用の例として挙げられることが多いことです。そのときには必ず「先生は女らしくない女の人がいてもいいと思うし、男らしくない男の人がいてもいいと思うんだけど。」「子どもらしくないなはいって押しつけられたら、みんなはどんな気持ちがする？」などと生徒たちに話すようにしています。「らしい」ということは、「その人らしい」を奪ってしまうことがあると思うからです。

生徒たちを取り巻く社会状況は年々変化し、さまざまな情報があふれています。そんな日常においても、生徒たちが毎日の生活を送っている「学校」の存在は変わらず大きいものです。学校や学級の集団がどんなものであるか、自分の気持ちを何でも話せる人はいるのか、安心で

きる居場所はあるのかなど、どれも大切にされなければならぬことです。そして日々生徒たちと向き合っている先生のことばやものの見方も、生徒たちに大きな影響を与えるものだと感じています。

だからこそ、まず授業や普段の生活において人権を意識して生徒たちと接することを大切にしたいと思っています。特別に身構えることなく（場合によっては「身構える」必要もありますが）、生徒たちが固定観念や社会通念、偏見に囚われることのない多様なものの見方を身につけることのできる教育の営みを日々の生活の中で積み重ね、より確かなものにしていきたいと考えています。ただそのときには、こちらからの一方的なものの見方の押しつけになることのないように心がけています。

私たち一人ひとりが「ありのまま」の自分であることが尊重されている社会は、人権が保障

された居心地のいい社会といえます。しかし、生徒たちは今後、「ありのまま」の自分であることが脅かされるようなことに出合うことがあるかもしれません。そんなときはもちろん、他の人が「その人らしく」生きる権利を侵害されるような場面でも、そのことを「他人ごと」ではなく「自分ごと」として考え、その解決のために、ともに行動していける人であってほしいと願っています。そのときに、学校で身につけた正しい知識や多様なものの見方が大きな力になってくれることでしょう。

このように生徒と向き合う教職員としての役割の大きさを考えたとき、自分自身の人権課題に対する意識をより高め、感覚をさらに磨いていくことが大変重要となります。今までの経験や知識に甘んじることなく、他の実践に学び、研修や本などを通じて、自分自身が日々学び続けていくことも大切にしていきたいと思っています。



学校のお宝発掘

「人権教育教材集・資料」
(平成23年度版)

(大阪府教育委員会 H23)

全ての子どもに配布されていた読本「にんげん」が、平成20年から学校設置用となりました。背景には様々な事情がありますが、人権教育を進める環境という観点では、後退したと言わざるを得ません。そんな中、なんとかしてピンチを挽回しようと考えたのがこのCD。

「にんげん」シリーズに掲載されていた教材のデジタル化はもとより、時代の流れに合わせた書き下ろし教材、さらには、「いま どんな きもち」の絵カードやサイコロといった大阪府人権教育研究協議会（大人数）作成の教材など、使ってみたい教材がてんこ盛りです。



収録されている教材数は小中学校合わせて105に及び、CDのコピーも自由とのこと。これを使わないのはあまりにもったいない！

「ぼくの学校、わたしの学校、みんなの学校」

かわのひでただ

★3・11

大きな地震がきた後、チヨースこい津波がきたんだよ。先生が、「みんな、津波が来るから、逃げるぞあ」って、ボクたちを裏山に引っ張って行ったんだ。クラスの友だちに、車イスを使っているチヨちゃんがいるんだけど、みんなで代わりばんこで、車イスを押したり、かついだりして、ふうふうで、裏山のせまい道をのぼったんだよ。だからボクたちのクラスは、逃げるのがピリッけつだった。山の上の広場について、ふりかえると、ボクの学校の屋上まで、海の水にのみこまれていたのが見えた。みんな、顔真っ青で、足がガタガタふるえてた。

先生たちのおかげで、ボクの学校では、津波に流されたひとは、いなかったけど、そのかわりに、学校はつぶれてしまったし、お家や、家族のひとが流されて、悲しい目の色をした友だちがたくさんいる。大人たちは、あまりに大きなことが起こったので、みんな疲れている。ボクの家族は、なんとか無事に逃げただけども、お家は、流されてなくなってしまう。今は、仮設住宅でみんなと一緒に暮らしているんだ。

また、雪がさんさんと降る季節になった。3・11のときにも、雪が降ってたなあ。

ボクの学校はつぶれてしまったから、遠くのちがう学校で勉強してるんだ。

元の学校で、元の友だちと遊びたいなあ。元の学校に行きたいなあ。

★3・11

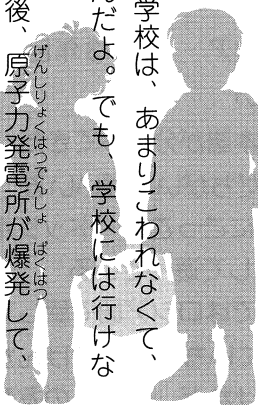
わたしの学校は、地震のとき、とてもゆれたけど、あまりつぶれなかったんだよ。だから地震の後、みんなの避難所になったけど、今は、地震や津波で学校がなくなったところのひとたちが、校庭にプレハブの教室を建てて、勉強してる。ひとつの学校に、3つの学校のひとたちがいるんだから、ひとだらけだよ。車イスのタケちゃんも、行ける場所がなくなつて、困ったちゃんの顔してる。わたしは、いつもタケちゃんと一緒なんだけど、ホント、車イスで、廊下を通っても、すぐに、ひとにぶつかっちゃうんだよ。

いつになったら、いつもの普通の学校になるかなあ。雪がさんさんと降ると、学校に通うのも大変だ。わたしのいる仮設住宅は、山の上にあるんだから……。春が早く来ればいいんだけどなあ。春よ来い。新しい学校を早く連れて来い……。

★3・11

わたしたちの学校は、あまりこわれなくて、ちゃんとあるんだよ。でも、学校には行けないんだ。

地震と津波の後、原子力発電所が爆発して、放射能がいっぱいちらばったんだって。わた



したちの学校は、発電所の近くにあるから、みんな避難したの。先生も、子どもたちも。だから今は、わたしたちの学校は、からっぽ。

わたしも、みんなも、遠い町に逃げているから、みんなバンラバラ。放射能は、においがしないし、見えないし、さわれないから、こわいよ。

赤ちゃんや子どもたちのほうが、大人よりあぶないんだって。そんなこと、わたしたちには分からないよ。

どうしたら、いつも行っていた学校にもどれるかなあ。どうしたら、みんなと一緒に、学校に行って、笑ったり、遊んだり、勉強したりできるんだろうか。

先生に会いたい。友だちに会いたい。学校に行きたいよ。どうしたら、行けるの。だれか教えてよ……。

●3・11の東日本大震災で困っている子どもたちとつながって、みんな、応援しよう。

●どのような応援ができるのか、先生とクラスで話し合おう。

●これからも続くでしょう、自然災害のこと、3・11のことを忘れないようしよう。

●防災のことを考え、防災訓練にも、積極的に参加しよう。

●にんげんにとって一番大事なものの、「いのち」について考えよう。